

## 《教育長メッセージ 第55号》

### 『支え合う仕組み』

人が暮らし生活するところには、支え合う仕組みがあります。

家庭、地域、学校や職場、町、県、国・・・世界。



そこには、ボランティアとして、仕事として、役割分担があり、それを果たすことで、お互いが支え合って、よりよい生活が成り立っています。

例えば、家庭では、みなさんはどんな役割を担っているのでしょうか。私は、働いて家族が生活する費用を稼いでいます。他にも、ゴミをまとめること、洗濯物の取り込み、お風呂の準備、休みの日の母親との散歩と買い物、母親の病院などが、私の役割です。妻は、働きながらも家事全般を行っています。息子は、お風呂掃除の当番です。

母親と4人で役割を分担し、お互いに役割を補い合いながら生活しています。

地域ではどうでしょう。

みなさんが自治会に加入し、会費を出し合って、役員や班長などの役割を分担し、安全・安心で、よりよい環境の住みやすい地域の生活を運営しています。

学校や職場ではどうでしょう。

親睦会や組合を組織して、働きやすい職場づくりや働く人の権利を守っています。

違った視点から、学校では、子どもたちが、学級の当番活動や全校的な委員会での活動をひとりひとりが担って、楽しい学校生活を送り、よりよい社会生活のための支え合う仕組みを体験的に学んでいます。

町から世界まで、集団の規模が大きくなっても、私たちは、お互いに支え合う仕組みの中で生活を送っています。

しかしながら、この支え合う仕組みは、それぞれの時代で問題が生じ、それを解決するために、仕組みが見直されてきました。

村八分や争いごとなど、仕組みが強固になることで、かえって支障が生じることがありました。

また、仕組みは、時に、個と集団の折り合いを求められ、物質的な生活の豊かさの中では、個にとっては、面倒で不必要なものと思えられよう

になることもありました。

そして、今はどうでしょうか。

今、みなさんにとって、お互いを支え合う仕組みはどうでしょうか。

私は、仕組みが崩れているように思えるのです。

確かに、東日本大震災後に「絆」がクローズアップされ、地域コミュニティの再構築が叫ばれましたが、その後はどうでしょう。各地域での取組はありますが、全体としては、人と人とのつながりは薄れてきているように思えるのです。

教育は、大人が自らの行動で子どもたちによりよいものを示すことが基本で、学校では、計画的に学習活動としてそれを繰り返し体験させて、子どもたちによりよく生きる力を身につけさせます。

私は、ひとりひとり違った個性を持つ子どもたちが、お互いに「支え合う仕組み」を学校教育の中で、重点的に体験させるべきではないかと考えているのです。

みなさんは、どのようにお考えでしょうか。

次回は、「研究発表会」について、私の思いを述べてみたいと思います。